

# ZAIDAN NEWS LETTER

MAY/2012  
VOL.15

# HITACHI

Inspire the Next

- ◆公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
- ◆公益財団法人 日立環境財団
- ◆公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
- ◆公益財団法人 日立国際奨学財団
- ◆公益財団法人 日立みらい財団
- ◆日立ファウンデーション (米国)

## ■ 公益財団法人 日立みらい財団 創立45周年

日立みらい財団は2012年3月で設立45周年を迎えました。財団の堀田評議員よりご祝辞をいただきましたのでご紹介いたします。

### 飛躍の時が来た



「この木なんの木、気になる木」は、驚くほど幅の広い日立グループの事業を象徴している。営利事業だけでなく、6つの財団をサテライト拠点として展開されている日立グループの社会貢献活動も、気になる木のように驚くほど幅広い。ただ、後者については、残念ながら、世間にそれほど認識されているよう

には思えない。

たとえば6つの中の1つ、日立みらい財団は、もう45年にわたり犯罪予防、矯正保護という地道な分野で貴重な活動を展開し、大きな実績を上げてきたというのに、そして、そのことは法務省の職員やその分野の関係者の間では、深く感謝されているというのに、世間様にはほとんどわかって頂いていない。

残念である。目立つために社会貢献活動をやらないが、社会に役立つ活動をしているのだから、そのことが少しずつ社会に認識されていって、同じような志でボランティア活動をする人が社会に広がっていくという効果を挙げることも、重要なことである。

その意味で、日立みらい財団の活動も、この度公益財団法人として認められたことを機に、転化発展する機を迎えたのかも知れない。

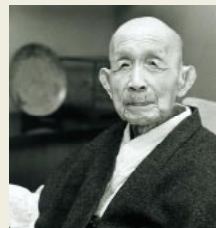
民間にしかやれない公益活動を、いかに世間一般の人々の共鳴を引き出し、その力を最大限に借りながら、展開していくか。そしてその成果を、いかに世間に訴え、新しい共感を積み上げていくか。今、その知恵が求められているのであろう。

公益財団法人 さわやか福祉財団 理事長

堀田 力

## ■ 財団のあゆみ

- |            |                               |  |
|------------|-------------------------------|--|
| 1967年3月29日 | 財団法人青少年更生福祉センター<br>創設者 竹内 亀次郎 | 犯罪や非行化に陥った青少年の立ち直りの手助けをし再犯予防のため地域社会での理解を促進することを目的に設立された。 |
| 1971年9月16日 | 財団法人矯正福祉会<br>創設者 竹内 亀次郎       | 社会における犯罪現象の学問的解明をめざし、1日も早い復帰を願い矯正教育を支援する財団として設立された。      |
| 2000年4月 1日 | 2財団が統合し財団法人 日立みらい財団となる。       |  |
| 2011年4月 1日 | 公益財団法人 日立みらい財団                |  |



初代理事長 竹内 亀次郎  
(株)日立製作所 元副社長  
平成2年5月11日100歳の誕生日の写真  
100歳までの23年間理事長を務めた。

## ■ 事業内容

### 竹内亀次郎記念杯 日立市少年少女スポーツ育成大会

1978年から茨城県日立市体育協会と共催で小学生を対象に健全な心身の育成のため毎年8月に開催している。競技種目は、野球、バレーボール、ミニバスケットボール、サッカー、バドミントンの5種目。

日立市のスポーツ団体が対象。



竹内亀次郎記念杯  
日立市少年少女スポーツ育成大会

### ストックホルム犯罪学賞

2005年よりスウェーデン政府が主催する「ストックホルム犯罪学賞」に協賛し犯罪学やテロ防止に対する研究を支援している。

### 機関誌「犯罪と非行」発行事業

1969年創刊。青少年犯罪の予防と更生保護、刑事政策などを専門に研究・発表する機関誌で年4回発行している。法務省・裁判所・大学図書館・新聞社・テレビ局 他に寄贈。

2011年8月号・No.169「薬物乱用・アルコール依存と犯罪」では巻頭言を聖路加国際病院 理事長 日野原 重明氏にご寄稿いただきました。

購読に関する件は日立みらい財団ホームページをご覧ください。

HP ▶▶ <http://www.hitachi-zaidan.net/mirai/index.html>

### 犯罪と非行



「犯罪と非行」169号

### 支援・助成事業

- ・刑務所や少年院などでボランティアとして関わっている団体に助成。
- ・社会復帰の手助けをする更生保護ボランティア団体を支援。
- ・法務省が提唱する「社会を明るくする運動」に協賛。
- ・犯罪に関する各学会の活動を支援。

### 子どもみらいサポート事業

日本BBS連盟および関係機関・団体との連携のもと、子どもの健全育成とBBS会員のスキルアップを目的として、全国各地で体験活動を行っている。

2011年度は、山口県でテント泊や飯ごう炊さん、キャンプファイヤー、竹細工・紙すきを体験。(写真)



## 日立みらい財団

犯罪学の国際賞と言われている「ストックホルム犯罪学賞」授賞式が、今年もスウェーデンのストックホルムで6月に開催されます。この賞は、犯罪学分野の優れた研究者・実務家に贈呈されるもので、スウェーデン法務省の後援による犯罪撲滅に向けた世界的な取り組みです。当財団は、賞が設立された2005年より支援しています。本賞の設立に関わった元駐日スウェーデン大使クムリン氏より、当財団の支援に対して謝辞をいただきましたのでご紹介いたします。



元駐日スウェーデン大使  
クムリン氏

### ● The Hitachi Mirai Foundation : Early supporter of the Stockholm Prize in Criminology

The Stockholm Prize in Criminology was established in 2005 under the aegis of the Swedish Ministry of Justice. Its purpose is to highlight the role of the science of criminology in combating crime and in developing effective and appropriate crime policies. Through its early support of the Prize, the Hitachi Mirai Foundation to a very large extent has contributed to its success.

The Prize is awarded by HM Queen Silvia at a yearly ceremony at the Stockholm City Hall, ie the same venue as where the Nobel festivities take place. The Prize sum is attractive, : one million Swedish crowns. This sum has been collected annually through private donations. The Hitachi Mirai Foundation was one of the early contributors. This support has been of great importance, not only in financial terms : putting the prestige of the Foundation in support of the Prize, has enhanced its international character.

As a result of its international success, the Swedish government has created a permanent Foundation for the future administration of the Prize. This will guarantee its independence and long term viability. As Senior adviser to the Swedish Ministry of Justice for the Stockholm Prize in Criminology , and as a former Swedish ambassador to Japan , I am delighted to welcome the Hitachi Mirai Foundation as one of the co-Founders of the New Prize Foundation.

Krister Kumlin

### ● スtockホルム犯罪学賞の創設サポーター日立みらい財団 (抜粋意訳)

ストックホルム犯罪学賞は、スウェーデン法務省後援の下、2005年に設立されました。その目的は、効果的かつ適切な犯罪政策を推進し、犯罪学の役割を強調することです。本賞は、ノーベル賞授賞式の開催場所であるストックホルム市庁舎で行なわれ、シルヴィア王妃によって授与されます。賞金は、百万スウェーデンクローネ(日本円で約1千万円)で、財源は民間の寄付で成り立っています。日立みらい財団は、賞の創設時という極めて初期の段階から支援をコミットして下さり、国際的な援助としてこの賞の評価をも高めています。スウェーデン政府は、ストックホルム犯罪学賞の将来的な運営のため今年財団を設立しました。私はスウェーデン法務省上級顧問として、また元駐日スウェーデン大使として、日立みらい財団が新しい財団の共同創設者の一つであることを大変嬉しく思います。

クリスター・クムリン

## 小平記念日立教育振興財団

### ● 公益財団法人へ移行

小平記念日立教育振興財団は、新公益法人制度の施行に伴い、内閣府に対し、公益認定の申請をしまりました。このたび内閣総理大臣より認定通知を受け、2012年4月1日付けにて「公益財団法人 小平記念日立教育振興財団」へ移行したことをご報告させていただきます。

当財団は、1971年7月に教育の振興に寄与することを目的として、財団法人 小平記念会として設立されました。地域に密着したさまざまな地域文化振興事業や明日を担う子どもたちの健全育成を目指す家庭教育振興事業を、これからもより一層活性化させてまいります。今後とも皆様方のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。

## 日立ファウンデーション

### ● 「企業と就労プログラム」、ホワイトハウスからも評価

米国では雇用問題が大きな社会課題となっています。日立ファウンデーションは、事業のひとつである「企業と就労プログラム (Business and Work Program)」を通して、米国の大手財団や企業、労働省などとの協働で、米国の低所得労働者の職業訓練を促進し、雇用の質を上げる支援をしており、この分野の先駆者として注目されています。2012年2月22日には、日立ファウンデーションのバーバラ・ダイアー事務局長とシニアプログラムオフィサーのマーク・ポボピッチがホワイトハウスに招聘され、米国の労働力開発の今後と企業の役割について、ホワイトハウスの国内政策室や米国下院の教育・労働力委員会のメンバーと意見交換を行いました。



ダイアー事務局長とポボピッチ・シニアプログラムオフィサー

詳しくは日立ファウンデーションHP ▶▶

<http://www.hitachifoundation.org/our-work-ja/business-and-work-grants-program-ja> をご覧ください。

## 日立環境財団

### ● 「環境サイエンスカフェ」開催報告

#### 第7回「異常気象と気候変動」

日本国内で頻繁に見られるようになった大雨や、台風の巨大化、記憶に新しいタイの大洪水など、近年はこのような異常気象が増える傾向にあります。

今回は講師に気象研究所の釜堀弘隆さんをお招きし、気候変動の影響によって引き起こされているさまざまな気象現象について詳しく解説いただきました。

産業革命以降、二酸化炭素などの大気中の温室効果ガス濃度が増え、気象観測データにははっきりとした気温の上昇が示されています。こうした気温上昇の結果、20世紀半ば以降には、予想を超える自然災害をもたらす気象現象が多く観測されるようになってきました。統計データによると、年間降水量が増えるとともに、大雨の頻度も増えています。逆に、降らない日も増えているそうです。かんばつ地域が増え、台風の経路も変わってきています。今後もこの傾向は続き、日本独特のしとしとと降る雨が減っていくでしょう、とのお話でした。



2月22日(水) サロン・ド・富山房 Folio

#### 第8回「極域から見る地球温暖化」

国立極地研究所では、長年にわたり南極での調査を続けてきましたが、2011年からは北極でも本格的な調査プロジェクトが開始されました。そこで北極観測センター長の榎本浩之さんを講師にお招きし、両極の統合的なデータから見た現在の状況についてお話いただきました。

南極の棚氷の崩壊、ホッキョクグマの絶滅危機など、さまざまなニュースを耳にしますが、実際に北極海では大きな氷が減少し、急速に変動しているとのこと。南極ではまだそれほどの気温の変化はないのですが、雪の量は増えており、これは温暖化により水蒸気量が増えたためだろうとされているそうです。

過去に3度参加した南極調査隊での体験談では、スウェーデン隊のシャワー付き豪華雪上車(内装はKEA製で木の香りがするそう)や、対照的に耐久性に優れ、しかし質素な日本隊の雪上車などを、写真を交えて紹介いただき、世界各国の調査隊の皆さんの日常など、貴重なお話を伺うことが出来ました。



4月11日(水) サロン・ド・富山房 Folio

※ 次回予告:6月27日(水) テーマ:地球温暖化は「怖い」か? (講師 国立環境研究所 江守 正多さん)

詳しくは日立環境財団HP ▶▶ <http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/> をご覧ください。

### ● 2012年度の「環境NPO助成」支援団体が決まりました。

当財団では、環境NPO・NGO団体、任意団体の活動に対する助成金事業を行っています。今年度は、全国より過去最多の96件の応募がありました。選考委員による審査の結果、下記の9団体に総額800万円の助成が決まりましたのでご紹介します。

	団体名	代表者	活動名
1	奈良県立磯城野高等学校 農業クラブ 環境デザイン部	水尾 洋光	地球温暖化防止に貢献する地域と一体となった農への取組み
2	ソーラーカーチーム プロミネンス	宮村 智也	エネルギー自立型・電動超小型モビリティシステムの実証
3	任意非営利団体 「置賜MOTTAINAI研究会」	奥山 徹也	MOTTAINAIプロジェクト ~ワインの搾りかすを活用したリサイクル飼料と地鶏生産を組み合わせた環境活動と産業界との融合~
4	特定非営利活動法人 FoE Japan	ランダル・ヘルテン	地域活性化に資する廃棄物の発生抑制の施策研究およびモデル事業
5	特定非営利活動法人 OWS	横山 耕作	北限域の造礁サンゴ モニタリング調査
6	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター	谷山 博史	土地・森林保全と持続的農業による生活改善プロジェクト
7	NPO法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議	立川 涼	低線量放射線被曝の健康影響に関する情報整理と提言
8	特定非営利活動法人 しもかわ森林未来研究所	金子 一志	炭素循環に関する都市・農村連携の研究
9	NGO「Life Investigation Agency (LIA)」	宮坂 斉秀	「源水川 イトヨ」再生キャンペーン



奈良県立磯城野高等学校 環境デザイン部



ソーラーカーチーム プロミネンス

## 日立国際奨学財団

### ●2012年度応募者の現地面接を実施しました。

今回は、財団活動へのご理解を深めていただく一環として招聘者決定のプロセスをご紹介します。

例年10月末までに支援対象であるASEAN6カ国15大学から各学長室経由、推薦を得た日本の留学及び研究志望の応募者書類が届きます。11月に全員の書類審査を終了し、12月から翌1月にかけて現地に2回出向き応募者面接を実施します。

本人面接とは別に各大学幹部との面談の場も設け、各教育・研究現場の状況や財団事業への要望などもヒヤリングします。応募者面接や幹部面談の日程作り、応募者の学内選考・予備面接などは帰国した卒業生に支援をお願いし協力してもらっています。また、面接・面談の間には出来る限り卒業生の研究室を訪問したり、同窓会を催し財団とのネットワークの維持を図っています。

その後、約1カ月をかけ招聘候補者の日本の留学・研究希望

先の先生との面談を実施します。一般的な書類審査とは別に、財団事務局自らが現地面接や受入先の先生との面談を通じて綿密なマッチングを行っているのは他に例がなく日立独自の選考方法です。その主なる理由は派遣・受入双方間の学問・研究分野に齟齬がないか、相性に問題ないかを確認するためです。これは招聘者を決定する上で重要な点です。

最後に5月開催の選考委員会(5名の社外学識経験者)の場で招聘者を決定します。特に、留学生招聘者は母国に戻った後の日本の大学との共同研究や学術交流を推進する中心人物となるべく、学業成績のみならずコミュニケーション能力や人間的資質も重視し選考しており、日本の先生方から高い評価を得ています。



ガジャマダ大学学長との面談



インドネシア大学同窓会



選考委員会の様子

## 倉田記念日立科学技術財団

### ●第44回 倉田奨励金贈呈式を開催しました。

3月1日(木)、経団連会館において第44回倉田奨励金の贈呈式を開催し、53件の研究テーマに対して、総額6,000万円の研究奨励金を贈呈しました。

今年は山形大学の結城章夫学長からご祝辞をいただいた他、受領者が所属する大学や研究所の関係者、日立グループ・財団関係者など約110名が出席しました。



贈呈式



記念パーティー

## 編集後記

小平記念日立教育振興財団が公益財団へと移行し、国内にある日立の5つの財団はすべて公益財団への移行を無事完了いたしました。準備期間も入れ4年間、長い道のりでした。

日立みらい財団の設立45周年に堀田力様より祝辞をいただきました。堀田様のお言葉にありました「民間にしかやれない公益活動」をめざし、私たち財団は新たな活動と情報発信をしてみたいと思っています。

スウェーデンのクムリン元大使より、日立みらい財団が支援しているストックホルム犯罪学賞は、日本からの支援で国際的な評価を更に高めていると謝辞をいただきました。私たち財団は、すでに、アメリカ、アジアでの活動を行っていますが、今後もグローバルな視点にたった活動に少しずつ広がっていくことを願っています。

このニュースレターがお手元に届くころは梅雨入りかもしれません。次号は9月にお届けする予定です。



本ニュースレターに関するご意見・ご感想等がございましたら、財団までお寄せください。お待ちしております。

公益財団法人 小平記念日立教育振興財団

✉ odairakinen@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-3257-0850

公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団

✉ kurata@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-3257-0852

公益財団法人 日立環境財団

✉ kankyo@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-3257-0851

公益財団法人 日立国際奨学財団

✉ scholarship@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-3257-0853

公益財団法人 日立みらい財団

✉ mirai@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-3257-0850

所在地 〒101-8010 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDXビル21階

日立ファウンデーション(米国)

✉ shakai.koken.qm@hitachi.com

TEL 03-4564-5040

\*日立ファウンデーションについてのお問い合わせは(株)日立製作所CSR本部 国内社会貢献部まで

人を育み 未来へ繋ぐ



日立グループの社会貢献活動

発行日:2012年5月31日発行

発行責任者:神山 和也

編集責任者:寺村 奈津季

印刷:日立インターメディアックス(株)

財団ホームページ ▶▶▶

[www.hitachi-zaidan.org](http://www.hitachi-zaidan.org)